

## 学生による相互評価と自己評価 —学習者オートノミーの向上を目指して—

薄井 良子 (関西学院大学日本語教育センター)

大河内 瞳 (関西学院大学日本語教育センター)

内藤 真理子 (関西学院大学日本語教育センター)

### 1. 出発点

ここ数年で、本学が受け入れる交換留学生数、また提携を結ぶ大学が増加している。多様な学生が在籍するクラスを教師が一元的に管理するのは限界があるだろう。そう考える発表者たちは学習者オートノミー(青木, 2005)の重要性を感じている。大河内は 2013 年度秋学期に担当した中級後期の会話の授業で学生自身による自己評価を取り入れてみたが、自己評価に困難を感じる学生が少なくなかった。教師は学習者オートノミーの育成のために何ができるのだろうか。

### 2. ルーブリック

自己評価する方法の一つとしてルーブリックが挙げられる。ルーブリックとは、「数段階に分けてレベルのめやすを記述したもの。達成度を判断する評価基準表」(當作・中野, 2013) のことである。この表を使うことで、学習者に有益なフィードバックを与えることができ、かつ、学習者自身が自己評価をする際の指針を与えることもできる。

### 3. ルーブリックを取り入れた活動例

薄井が担当した 2014 年冬学期の上級前半の作文(4人)の授業で学生が作文を自己評価する眼を養うことを目的にルーブリックを導入した。まず 600 字の意見文の執筆にあたり、教師が設定した五つの評価項目(①立場を明確にする②主張の根拠を述べる③対立する立場について考える④反論する⑤結論を述べる)と採点基準(書けている-5点、書いているが足りない-3点、書いていない-0点)を事前に提示し、それを意識しながら書くことを指示した。次に 1000 字の意見文を書くにあたって、学生が自分の達成目標として選定した二つの評価項目を追加し、自分の書いた作文を自己評価した。その結果、学生からは、自分のことを評価することができたら、もっといい学生になり、その科目の勉強方法もわかる・自分の弱点やいいところがきちんとわかっているかどうかを確かめることができた・教師の基準だけでなく自分の基準を作ることができるシステムがあるのはよかったという肯定的なふりかえりがあった。今回は自己評価にとどまったが、これにルーブリックを用いた学生同士の相互評価を加え、さらに自己評価と相互評価の経験を重ねることで学生の学習者オートノミーが育っていくのではないだろうか。

#### ◆参考文献◆

青木直子(2005)「自律学習」日本語教育学会(編)『新版日本語教育辞典』大修館  
當作靖彦・中野佳代子(2013)『外国語学習のめやす:高等学校の中国語と韓国語教育からの提言』公益財団法人 国際文化フォーラム